

令和6年度



中海小だより

令和7年 1月



校長 若山直代

今年も よろしく お願いします



令和7年になりました。三学期もスタートし、寒い中でも子ども達はがんばって登校しています。元日の夕方、いつも通りに平穏に時間が過ぎていくことに、ほっとした方も多いのではないのでしょうか。8日の始業式では、一年前の地震を思い、皆で黙とうをしました。今年は災害のない年になるよう願うとともに、復興が一日も早く進み、被害にあわれた方が安心して生活できるようお祈りしました。



三学期 始業式のお話

「ぐりとぐら」は なぜ カステラを焼けたのでしょうか



冬休みに読んだ本は、悩みや不安を持っている人達が、自分にぴったりの本を読んで元気になっていくお話でした。元気になる本には絵本の「ぐりとぐら」も出てきます。みなさん、読んだことはありますか（挙手・大勢いました）2匹のネズミ「ぐり」と「ぐら」が、森で見つけた大きな卵をつかって、大きなカステラを作るお話です。

ぐりとぐらは、ある日キノコや木の実を採りに行きました。そこで、ぐうぜんに今まで見たこともないような大きな卵を見つけました。ぐりとぐらは、その卵でどんなおいしいものを作ろうかと考えに考えて、カステラを作ることにしました。出来上がったカステラは森の動物みんなでおいしく食べました。

なぜ、ぐりとぐらは、ふわふわでおいしいカステラを焼くことができたのでしょうか。

それは、ぐりとぐらが普段からたくさんお料理をしていたからです。いつか森で大きな卵を見つけることが分かっていたから、そのためにお料理をしてきたのではありません。これまでに、作りたいものを作って食べることを繰り返すうちに、カステラも作ったことがあったのかもしれないし、お料理の腕がどんどん上がったのでしょう。だから、ぐうぜん卵を見つけても、おいしいカステラを焼くことができたんですね。

これは学校と同じだなと校長先生は思いました。みんなも学校のいろいろな勉強をしていますが、何かのために役立てようと思ってしていることは案外少ないのではないかと思います。

います。でも、今やっていることは、必ず後で何かの役に立ちます。勉強だけではありません。学校で経験する楽しいことも、そうでないことも、いつかきっと、あなたや周りの人を幸せにすることに役立ちます。ぐりとぐらのカステラのように。

さあ、三学期もいろいろなことにチャレンジして、自分も周りの人も幸せになる力をつけていきましょう。

参考文献 ぐりとぐら 福音館書店 1967 なかがわりえこ作 おおむらゆりこ絵
お探し物は図書室まで ポプラ社 2020 青山美智子 作



オーケストラ
アンサンブル金沢
演奏会
12月18日




中海小の元ブラスバンド部の保護者の皆様のご厚意で、素晴らしい演奏会が開かれました。オーケストラ・アンサンブル金沢の演奏家の方が10名も来て下さり、クラシックやジブリなど、たくさんの演奏をきかせてくださいました。

子ども達は、音楽の教科書でしか見たことがない楽器、初めて聞く音色に興味津々でした。地域の方にもたくさん参加していただき、約1時間の音楽の時間を楽しみました。

子どもの感想には、おどろきと感動がいっぱいあふれていて、本物に触れることの大切さを楽しみ思いました。元ブラスバンド部の保護者の皆様に、このような機会をいただけたことに深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

<子ども達の感想> 感謝のお手紙からほんの少しだけ抜粋しました

- ホルンがぐるぐるしていて、かたつむりみたいで、おもしろかったです。(1年)
- 一つ一つの楽器のやくわりや、音の高さと低さがしれて、うれしかったです。(2年)
- ぼくがびっくりしたのはコントラバスの大きさです。とつてもびっくりしました。(3年)
- 心に残った曲は千と千尋です。とてもなめらかな曲だけど、はくりよくを感じたからです。(4年)
- いろんな楽器が重なって感動したので、ぜひコンサートに行きたいなと思いました。(5年)
- 木管楽器やげん楽器のきれいな音色が体育館全体に広がっているような気がしました。(6年)